

秋吉台の草原修復

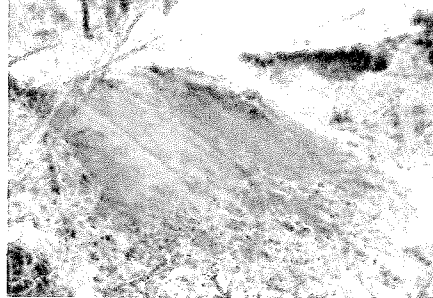
秋吉台パーク ボランティアの会 の軌跡

今から9年前の平成11年4月に秋吉台パークボランティアの会は誕生した。目的は秋吉台の草原の自然を修復し、名前にふさわしい優れた自然を再生することだった。そのためには秋吉台の医者として病変を早く見つけ、早期に病根を摘み取ることに努めてきた。秋吉台の自然は、常時微妙に変化しており、継続して修復する必要がある。こうして会員は月2～3回秋吉台に集まり、できる範囲で修復事業を続けた。ここでは、その主な事業を紹介したい。

1) 北山西側（地獄台東斜面）の褐鉄鉱採掘跡地の緑化

戦時中に、この地中から褐鉄鉱を採掘した。戦後はその跡地は秋吉台の血のような赤い地面を残し、荒れていた。環境省のボランティアファンドからの支援を得て、緑化事業を実施して修復に成功した。

赤土がむき出しの斜



面

2) 草スキー場跡地の緑化・修復

長者が森展望台の西側に草スキー場があった。地面は真赤で、土壌侵食でうねっていた。普通には、秋吉台では草が生える。ところがこの緩やかな斜面では、雨水が地面を削り、全く草が生えなかった。会では、ここにノシバを植えて緑化した。3年間の格闘だった。

草スキー場の今と昔



3) セイタカアワダチソウの除去

秋吉台にはたくさんのセイタカアワダチソウが繁茂していた。私たちは、はじめの頃は自然状態ではセイタカアワダチソウは最後には自分で絶えると予想していた。そこで、実験地を作り、セイタカアワダチソウを実験的に観察する作戦を立てた。ドリーネ一面にセイタカアワダチソウが繁茂した場所を実験地を選んだ。

第1段階として、セイタカアワダチソウに勝つ植物を探した。結果は葛だった。葛の種

